

# II グループ会社の環境経営

九州電力のグループ会社では、地球温暖化の防止や循環型社会の形成などを企業の社会的責任と認識し、九州電力グループ一体となって環境経営を推進するとともに、各社の事業特性に応じた環境活動に取り組んでいます。

- 1 地球環境問題への取組み ..... 45
- 2 循環型社会形成への取組み ..... 46
- 3 地域環境の保全 ..... 47
- 4 社会との協調 ..... 47
- 5 環境管理の推進 ..... 48

## 1 九州電力グループ環境アクションプラン（グループ会社における取組み）

グループ会社一体となって環境経営を推進していくため、「九州電力グループ環境憲章」のもと、社会情勢等を踏まえた年度活動計画として、「九州電力グループ環境アクションプラン」を毎年度策定しています。

### 2010年度 グループ環境活動計画

- 1 地球環境問題への取組み
  - 温室効果ガス排出抑制への着実な取組み
  - オゾン層の保護
- 2 循環型社会形成への取組み
  - 廃棄物のゼロエミッション活動の継続的な展開
  - グリーン調達の推進
- 3 地域環境の保全
  - 環境保全の推進
- 4 社会との協調
  - 環境コミュニケーションの推進
  - 地域における環境活動の推進
- 5 環境管理の推進
  - EMS（環境マネジメントシステム）の自立運用の推進
  - 環境に関するコンプライアンスの徹底
  - 環境データの確実な把握と目標管理の推進
  - 環境教育の実施及び環境情報の共有化

詳細は九州電力ホームページ  
原子力・環境・エネルギー > 環境への取組み >  
九州電力グループ環境アクションプラン > グループ会社における取組み

### 私の環境アクション

(株)キューキ  
代表取締役社長  
ひらつか きょういち  
**平塚 強一**



### EMSの取組みを全社一体で実施

(株)キューキは、電力量計をはじめ電力設備における配電関連の監視制御装置や電力輸送関連の監視制御装置、発電所の制御盤など幅広い分野で多くの製品を提供しています。

当社は、EUのRoHS指令を先取りし、製品に有害物質（鉛）を使用しない対応や、発生する廃棄物の適正処理など環境負荷の低減に取り組んでいます。2003年3月にISO14001認証を取得して以降、EMSの仕組みを活用し、

これらの活動の継続的な改善を進めています。

また、地球規模での環境負荷低減には、九州電力グループ一体となった活動の中で、グループの一人として目標を定め取組みを行っています。

今後も、地球環境にやさしい“21世紀型企業”を目指し、環境保全と企業の成長を両立する環境経営に努めていきます。

2010年5月



ごみ分別の取組状況



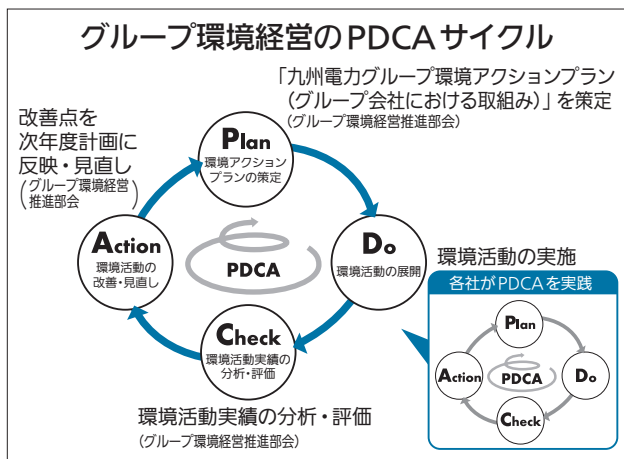
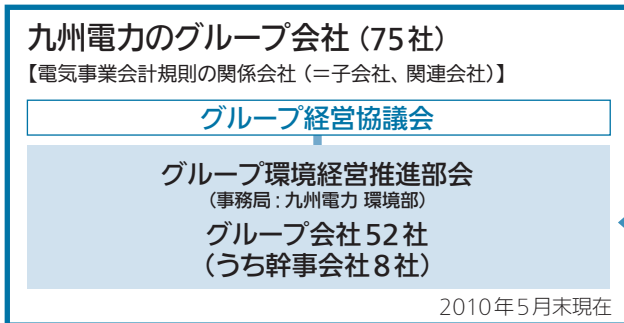
鹿児島県 竹崎海岸  
海岸線は北の吉信崎から南の大竹崎までゆるいカーブを描いており、透明な海と美しい白浜が魅力的な情景は、南種子名勝八景に指定され、種子島を代表する景勝地の一つです。

## 2 推進体制

「グループ経営協議会※」の下部機関として「グループ環境経営推進部会」を設置し、環境活動の分析・評価・見直しにより、グループ会社一体となって環境経営を推進しています。

2010年5月には、新たに2社が「グループ環境経営推進部会」に加入しました。

※：九州電力の関係会社で構成され、グループ経営に関する諸課題の検討、協議を行う機関。



- 環境経営
- 地球温暖化
- 循環型社会
- CSR（企業の社会的責任）
- 地球環境問題
- 温室効果ガス
- オゾン層
- ゼロエミッション
- グリーン調達
- 環境コミュニケーション
- 環境マネジメントシステム（EMS）
- コンプライアンス
- PDCA（サイクル）
- RoHS指令
- ISO14001



## エネルギー関連事業

●は「グループ環境経営推進部会」の幹事会社



### 設備の建設・保守

- 九州林産(株)
- 西日本プラント工業(株)
- 九電産業(株)
- 西日本技術開発(株)
- (株)九電工
- 西九州共同港湾(株)
- (株)九建
- 西技工業(株)
- 西技測量設計(株)
- (株)プラズワイヤー



### 資機材等の製造・輸送・販売[提供]

- (株)キューキ
- 西日本空輸(株)
- 九州計装エンジニアリング(株)
- 光洋電器工業(株)
- (株)キューヘン
- 九州高圧コンクリート工業(株)
- 誠新産業(株)
- 西日本電気鉄工(株)



### 卸電気事業/エネルギー事業

- 戸畑共同火力(株)
- 大分共同火力(株)
- 大分エル・エヌ・ジー(株)
- 北九州エル・エヌ・ジー(株)
- 西日本環境エネルギー(株)
- (株)キューデン・エコソル※
- (株)福岡エネルギーサービス
- みやざきバイオマスリサイクル(株)
- 長島ウインドヒル(株)※
- 九州冷熱(株)
- (株)福岡クリーンエナジー



## 情報通信事業

- (株)キューデンインフォコム
- 九州通信ネットワーク(株)
- ニシム電子工業(株)
- 九電ビジネスソリューションズ(株)
- (株)コアラ



## 環境・リサイクル事業

- 九州環境マネジメント(株)
- (株)ジェイ・リライツ



## 生活サービス事業

- (株)電気ビル
- (株)キューデン・グッドライフ
- (株)キューデン・グッドライフ東福岡
- (株)キューデン・グッドライフ熊本
- (株)キューデン・グッドライフ鹿児島
- (株)キューデン・グッドライフ福岡浄水
- 九電不動産(株)
- (株)九電オフィスパートナー
- (株)九電ビジネスフロント
- 九州住宅保証(株)
- (株)九電ホームセキュリティ
- (株)九電シェアードビジネス
- (株)九州字幕放送共同制作センター
- (有)オーク
- 九州高原開発(株)
- 伊都ゴルフ土地(株)

※:2010年5月に「グループ環境経営推進部会」に新規加入した会社。



詳細は九州電力ホームページ  
企業情報 > 会社概要 > 九電グループ紹介

### 温室効果ガスの排出抑制(原子力利用率の高水準維持等)を支えるグループ会社

九州電力の電気の供給面における温室効果ガスの排出抑制には、その中核となる原子力発電所の安全・安定運転の継続や予防保全対策の徹底に加え、再生可能エネルギーの安定した運転、火力発電所の熱効率の維持・向上が不可欠です。グループ会社は、設備の保守・点検、保修工事、定期点検の計画・実施及び助勢により、これらの取組みを支えています。

西日本プラント工業(株)は、原子力発電所や火力発電所等の保守・点検を行っています。特に原子力発電所の工事では安全・的確な対応が必要であり、技術者には、幅広い知識や高度な技術を身につけるため専門のカリキュラムによる集合教育や、現場でのOJT

を主とした指導・訓練を行い、技術力の維持・向上を図っています。

また、約3か月に及ぶ原子力発電所の定期検査では、およそ1,000人の技術者が発電設備の保守・点検を期間内に安全かつ的確に完了させることに努めています。

その他、西日本技術開発(株)や西技工業(株)、九電産業(株)など設備の保守を行っているグループ会社が九州電力と一体となり、着実にその責任を全うすることで、電気の供給面における温室効果ガスの排出抑制を図っています。



川内原子力発電所

### 再生可能エネルギーへ取り組むグループ会社

#### 太陽光発電関係

- 西日本プラント工業(株)
- 西日本技術開発(株)
- (株)九電工
- (株)キューキ
- 九州計装エンジニアリング(株)
- (株)キューヘン
- 誠新産業(株)
- 西日本環境エネルギー(株)
- (株)キューデン・エコソル
- ニシム電子工業(株)

#### 風力発電関係

- 西日本プラント工業(株)
- 西日本技術開発(株)
- (株)九電工
- 西日本環境エネルギー(株)
- 長島ウインドヒル(株)



長島ウインドヒル(株)長島風力発電所

#### バイオマス・廃棄物発電関係

- 西日本環境エネルギー(株)
- みやざきバイオマスリサイクル(株)
- (株)福岡クリーンエナジー



(株)福岡クリーンエナジー東部工場

- 原子力利用率
- 再生可能エネルギー
- 熱効率
- バイオマス

用語集の解説をご覧ください

## 1 温室効果ガスの排出抑制

自らの事業で排出する温室効果ガスの排出抑制についてグループ環境目標を設定し、省エネ活動、省エネ機器の導入及びエコドライブ等をグループ一体となって推進しています。

2009年度は、2008年度に発生した冷熱発電設備の制御不調の対策を実施し、HFCの排出量を抑制したことにより、温室効果ガスの排出量が減少しました。

### 【温室効果ガス排出量】

単位:千トン-CO<sub>2</sub>

	2007年度	2008年度	2009年度
CO <sub>2</sub> (二酸化炭素)※	117.4	122.9	118.7
CH <sub>4</sub> (メタン)※	0.1	0.1	0.3
N <sub>2</sub> O (一酸化二窒素)※	0.01	0.00	0.00
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	12.8	33.5	23.7
PFC (パーフルオロカーボン)	—	—	—
SF <sub>6</sub> (六フッ化硫黄)	0.05	—	—
合計	130.3	156.5	142.6

(注)四捨五入のため合計値が合わないことがある。

※:電力会社等への販売電力量分(発電用燃料の燃焼に伴う排出量)を除く。

## 2 オゾン層の保護

オゾン層を破壊するフロン類についてグループ環境目標を設定し、フロン類の排出抑制をグループ一体となって推進しています。2009年度は機器の更新がなかったため、排出量はほぼ横ばいとなりました。

### 【各種エネルギー使用量】

	単位	2007年度		2008年度		2009年度			
		会社数	使用量	会社数	使用量	会社数	使用量		
電力	オフィス	百kWh	37	31.7	38	30.2	38	28.3	
	工場等	百kWh	28	193.5	31	208.5	32	208.6	
燃料	車両等	ガソリン等	千ℓ	37	7.3	39	6.2	41	6.7
		天然ガス	千m <sup>3</sup>	1	0.4	1	0.4	1	0.3
	冷暖房用	千ℓ	9	0.3	9	0.3	9	0.1	
	工業用	※A重油等	千ℓ	11	2.2	12	1.8	12	1.7
		LNG、LPG	千トン	6	1.8	7	2.1	7	1.8
熱	蒸気等	百万MJ	3	32.9	3	39.5	3	48.1	

※:電力会社等への販売電力量分(発電用燃料)を除く。

### 【オゾン層破壊物質保有量等】

単位:トン

	保有量	2007年度		2008年度		2009年度	
		会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
CFC	保有量	4	15.8	4	15.6	4	15.5
	排出量	—	0.0	—	0.1	—	—
HCFC	保有量	26	55.3	26	57.4	26	54.7
	排出量	—	5.0	—	3.7	—	4.8
ハロン	保有量	6	12.4	6	12.4	6	12.4
	排出量	—	—	—	—	—	—

単位:ODPトン

オゾン層破壊物質 排出量※	2007年度	2008年度	2009年度
	0.1	0.2	0.1

※:各フロンのオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11重量相当に換算。

### エコキュート等の普及で温室効果ガスの排出抑制 (株)キューヘン

(株)キューヘンは、各種変圧器及び一般家庭用のオール電化製品(電気給湯器、IHクッキングヒーター等)の開発・製造・販売などの事業を行っています。温室効果ガス排出抑制への取組みとして、工場内の設備に省エネ機器の導入を進めるとともに、エコキュート及び高効率変圧器の販売にも力を入れています。

2009年度は、これらの製品の販売により、お客さまの排出するCO<sub>2</sub>が、エコキュートで約1,600トン/年※1、高効率変圧器で約20トン/年※2相当抑制されたと試算しています。

※1:従来型燃焼式給湯器(都市ガス)とエコキュートの比較試算。

※2:従来の変圧器と高効率変圧器の比較試算。

### 私の環境アクション

(株)キューデン・エコソル  
取締役 営業企画部長

あおき かずよ  
青木 計世



### 太陽光オンサイト発電事業で低炭素社会の構築に寄与

(株)キューデン・エコソルは、エネルギーセキュリティや地球環境問題を踏まえた太陽光発電の導入ニーズの高まりから、産業・公共部門のお客さま向けに環境性と経済性を両立する新しいエネルギーサービスの提供を目的に2009年12月に設立されました。

具体的には、工場やビルなどのお客さま施設内に太陽光発電設備を設置し、その発電した電気を提供するオンサイト発電事業の他、太陽光発電設備の設計、施工、維持管理まで一連の業務をワンストップで実施する

システムインテグレーション事業などを実施しています。

今後、事業活動を実施していく上で、お客さまの経済性をどう追求するかが課題となるため、お客さまのニーズをしっかりと拾い上げ、そしてお客さまの期待に応えられるようなサービスの提供に努めていきます。この事業で、低炭素社会の構築に寄与していきたいと考えています。



工場設置の発電設備イメージ

## 1 廃棄物のゼロエミッション活動の展開

廃棄物のリサイクル率についてグループ環境目標を設定し、リサイクル率の維持・向上をグループ一体となって推進しています。

また、事務用品等の購入の際は、環境負荷の少ない物品を優先して調達するグリーン調達に努めています。

### 【廃棄物の発生状況】

業種	発生量	単位	2007年度		2008年度		2009年度	
			会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
産業廃棄物	発生量	千トン	33	59.9	34	58.6	34	81.8
	リサイクル率	%		89		87		91
古紙	発生量	千トン	45	1.1	47	1.1	48	1.0
	リサイクル率	%		90		90		93

### 【環境・リサイクル事業】

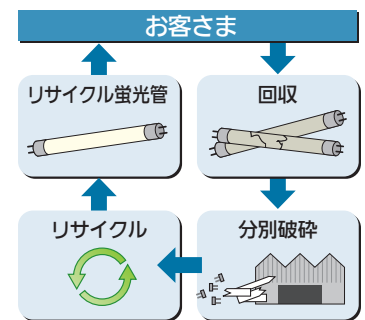
#### 蛍光管・乾電池リサイクル事業 (株)ジェイ・リライツ

(株)ジェイ・リライツは、回収した使用済蛍光管を可能な限り元の原料(ガラス・蛍光体・金属・水銀)に戻すリサイクル事業を行っています。

また、再生蛍光体・ガラスを使用した「よかランプ」、「トップスター(グリーン購入法適合)」の製造(社外委託)・販売に取り組んでいます。

2006年10月からは、使用済乾電池リサイクル事業を開始し、回収した乾電池(一次電池)を破碎・選別(金属・亜鉛・マンガン等)して、精錬会社・製鋼会社等へ原材料として供給しています。

なお、「ランプ to ランプ」を目指す蛍光管リサイクル事業が評価され、『平成21年度「資源循環技術・システム表彰 経済産業省産業技術環境局長賞」』を受賞しています。



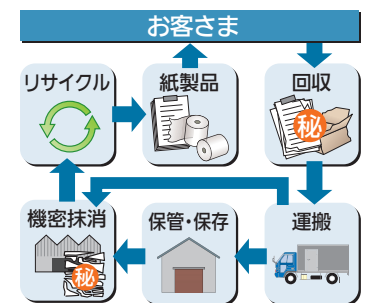
使用済蛍光管リサイクル事業のイメージ図

#### 機密文書のリサイクル事業 九州環境マネジメント(株)

九州環境マネジメント(株)は、従来、シュレッダー・焼却処分されていた機密文書の機密抹消・リサイクルを行う事業をはじめ、プライベートブランドのコピー用紙・トイレットペーパー等の紙製品の販売や文書類の保管事業を行っています。

お客さまからの機密文書回収にあたっては、セキュリティに配慮した回収ボックスや文書類の盗難及び飛散防止等の機能を有した専用車両を使用しています。

また、処理施設は、(財)日本品質保証機構(JQA)の安全及び機密保持基準をクリアし、九州で初めてリサイクル処理センター安全対策適合認定(2007年10月にISMS/ISO27001に移行)を受け、維持継続して運用しています。



機密文書リサイクル事業のイメージ図

### 【循環型社会形成に貢献している事業】

#### バイオマス・廃棄物発電 みやざきバイオマスリサイクル(株)／(株)福岡クリーンエナジー

みやざきバイオマスリサイクル(株)は、鶏ふんを燃料とした国内最大級のバイオマス発電所で、年間約13万トンの鶏ふんを受け入れて燃焼し、11,350kWの発電を行うほか、焼却灰は肥料の原料として有効利用しています。そのような中、地域資源である鶏ふんの有効活用が評価され、『平成21年度 宮崎の「頑張る中小企業」表彰』及び『平成21年度「資源循環技術・システム表彰 経済産業省産業技術環境局長賞」』の表彰を受けました。

また、(株)福岡クリーンエナジーは、一般ごみの焼却によるごみ発電(29,200kW)を行っており、みやざきバイオマスリサイクル(株)と同様、循環型社会に貢献しています。



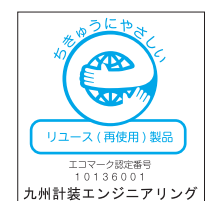
みやざきバイオマスリサイクル発電所

#### 証明用電気計器のリユース 九州計装エンジニアリング(株)

九州計装エンジニアリング(株)は、電力量計の修理・調整・製造業務を行っており、その技術を活かし、商業ビルやテナントから取り外した使用済の証明用電気計器(子メーター)を整備・点検し、再使用(リユース)する取組みを行っています。リユース品は新品と比べ製造から廃棄に至るCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減できることから、2010年4月、子メーターでは全国初となるエコマークの認証を取得しました。



証明用電気計器



エコマーク

- 循環型社会
- ゼロエミッション
- リサイクル率
- グリーン調達
- 産業廃棄物
- グリーン購入法
- (財)日本品質保証機構(JQA)
- ISMS/ISO27001
- バイオマス
- エコマーク

## 1 環境保全の推進

グループ各社で取り扱う法規制物質等は、関係法令に基づく適正な運用・管理に努めています。

PRTR法上の指定化学物質の多くは、熱供給事業で使用しているエチレングリコールであり、この排出量等は熱源設備の運転状況等により変動が生じます。

また、PCB廃棄物は、2009年度は13台の無害化処理を行い、2010年3月末現在の保有量は、704台となっています。保管中のものについては、「PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に基づき、処理期限の2016年7月までに処理する予定です。

なお、大分共同火力（株）においては、2010年4月に3号機増設計画の「環境影響評価方法書」の届出を行い、環境影響評価の手続きを開始しました。

### 【PRTR法上の指定化学物質の取扱量等】

単位:トン

	2007年度		2008年度		2009年度	
	会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
取扱量		68.2		39.0		39.8
排出量(大気)	5	22.5	6	31.1	6	33.9
移動量		110.7		99.3		74.8

(注)PRTR法上の指定化学物質で届出が必要なデータを計上。

### 【PCB廃棄物の保有状況等(2009年度)】

単位:台

	保有状況		処理状況	
	会社数	保有量	会社数	処理量
トランス	1	21	—	—
コンデンサ	9	34	—	—
安定器	6	630	1	13
その他	2	19	—	—

### 【大気汚染物質の排出量】

単位:千トン

	2007年度		2008年度		2009年度	
	会社数	実績	会社数	実績	会社数	実績
SOx排出量		2.0		2.1		2.4
NOx排出量	4	2.4	4	2.3	4	2.2

(注)ばい煙量の法的測定義務により、SOx・NOx排出量を把握している会社のデータを計上。

## 大分共同発電所3号機増設計画の「環境影響評価方法書」を国へ届出 大分共同火力(株)

大分共同火力（株）は、新日本製鐵（株）大分製鐵所から発生する副生ガス（高炉ガス、コークス炉ガス）及び重油を燃料として発電（25.5万kW×2基）を行い、副生ガスの有効利用と電力の安定供給を担っています。

この度、大分製鐵所の高炉の拡大改修等に伴い増加する副生ガスを有効に活用するため、発電効率に優れている副生ガス

焚きコンバインドサイクル発電設備の増設を計画（14.5万kW：2015年2月運転開始予定）しました。本計画を進めるにあたり、2010年4月14日、経済産業大臣に「3号機増設計画に係る環境影響評価方法書」の届出を行い、環境影響評価の手続きを開始しました。

## 4 社会との協調

### 1 環境活動に関する情報の積極的公開

グループ会社全体での環境活動情報については、本レポートをはじめ、九州電力ホームページにおいても公開しています。

また、各社それぞれの環境活動情報についても、各社ホームページでの掲載を拡大しています。



詳細は九州電力ホームページ  
原子力・環境・エネルギー > 環境への取組み



九州電力ホームページ  
(環境への取組み)

### 2 地域における環境活動の推進

「九州ふるさと森づくり」への参加や各社独自の地域清掃活動などを通じて、社会との協調を図っています。

#### 「さわやかコミュニティ旬間」における地域奉仕活動 (株)九電工

(株)九電工では、毎年10月下旬を「さわやかコミュニティ旬間」と設定しています。期間中は高所作業のノウハウを活かした清掃作業や福祉施設の設備点検作業など、地域社会に根ざした奉仕活動を実施しています。近年は、「CO<sub>2</sub>削減」への啓発を目的にエコバッグを街頭で配布するなど、地域のニーズに応える活動にも取り組んでいます。



浦上天主堂のステンドグラス清掃(長崎)

## 1 環境マネジメントシステム (EMS) の的確な運用

グループ会社のEMSは、構築レベルを6段階に分類した九州電力のグループ会社独自の統一的な基準（「九電グループにおけるEMS構築体制基準」）に基づき、グループ会社ごとに構築しています。グループ環境経営推進部会の加入会社は、第1段階以上のEMSを構築し、各社の事業特性に応じた環境活動に取り組んでいます。

なお、2009年度は、ニシム電子工業（株）が保守サポートセンターへISO14001認証範囲を拡大し、九州林産（株）が全社へエコアクション21認証範囲を拡大しました。また、5社が第2段階へレベルアップしました（下表）。



詳細は九州電力ホームページ

原子力・環境・エネルギー＞環境への取組み＞九州電力グループ環境アクションプラン＞  
九電グループにおけるEMS構築体制基準

### 【EMS構築状況(2010年5月末現在)】

EMS構築レベル	会社数	会社名
第6段階 ISO14001認証取得 (全事業所で認証を取得している会社)	6	西日本環境エネルギー(株) (株)キューキ 九州環境マネジメント(株)
		北九州エル・エヌ・ジー(株) 西日本技術開発(株) (株)キューヘン
		(株)九電工(本社) 九電産業(株)(環境部) 誠新産業(株)(本社)
第5段階 ISO14001認証取得 (一部の事業所で認証を取得している会社)	6	ニシム電子工業(株)(本社、佐賀工場、保守サポートセンター)
		(株)福岡グリーンエナジー(東部工場)
		大分エル・エヌ・ジー(株) 大分共同火力(株) 戸畑共同火力(株)
第4段階 ISO14001準拠	5	西日本プラント工業(株)(本店) 西日本空輸(株)
		—
		(株)ジェイ・リライツ
第3段階 エコアクション21認証取得	5	九州林産(株) 西日本電気鉄工(株)
		光洋電器工業(株) (株)キューデンインフォコム
		—
ISO簡易システム	1	九州計装エンジニアリング(株)(本店)
第2段階 文書による体制、目標管理、 遵守評価の実施	18	九州冷熱(株) 西九州共同港湾(株) 西技工業(株) (株)電気ビル
		(株)キューデン・グッドライフ福岡浄水 (株)キューデン・グッドライフ東福岡 (株)九電ビジネスフロント
		みやざきバイオマスリサイクル(株) (株)キューデン・グッドライフ熊本
		(有)オーク 西技測量設計(株)
		(株)九州字幕放送共同制作センター (株)福岡エネルギーサービス
		九州高圧コンクリート工業(株) 九州住宅保証(株)
		—
		—
		—
		—
—		

(注) 第1段階(環境管理体制の整備、環境方針の策定、環境目標の設定)は9社で、2010年5月の新規加入会社は第1段階のEMSを構築中。

## 2 環境に関する法規制遵守の状況

グループ会社において、2009年度に主要な環境関連の法令等に基づく改善勧告・命令や罰則の適用を受けた事例はありません。

今後も引き続き、法令遵守はもとより、企業倫理にのっとった公正で透明性の高い事業活動を推進していくとともに、地元自治体と締結している環境保全協定等についても厳正に遵守していきます。

## 3 環境教育・環境情報共有化

グループ全体及び各社ごとの環境講演会の実施により、グループ従業員の環境意識高揚を図っています。

また、インターネットを活用した「九電グループ情報ネットワーク」に環境関連法規制等の情報を掲載し、グループ全体の環境情報共有化を図っています。

### 【社外講師による環境講演会(2009年度)】

環境月間講演会	6月	「ポスト京都議定書：中期目標と企業の対応」 東京大学先端科学技術研究センター特任教授 山口 光恒 氏
集合講演会	1月	「石油ピーク後のエネルギー EPRから幅広く考える」 (財)電力中央研究所特別上席研究員 天野 治 氏

### ISO14001 内部環境監査員養成研修を開催 ニシム電子工業(株)

ニシム電子工業(株)は、ISO14001の内部環境監査員を養成するため、受講対象をグループ会社まで拡大した研修を2005年から実施しています。本研修はISO14001をベースとするEMSに対応出来る内容で、この研修での試験合格者は各社の内部環境監査員として活躍しています。

これまでに、ニシム電子工業(株)で56人、その他のグループ会社で26人の内部環境監査員が養成されました。



研修の様子

- 環境マネジメントシステム(EMS)
- ISO14001
- エコアクション21(EA21)
- ISO(14001)準拠(システム)
- ISO簡易システム
- 環境保全協定
- 環境月間
- ポスト京都議定書
- EPR
- 内部環境監査員

## 4 事業活動と環境負荷の状況 (2009年度)

下図は、グループ会社での資源や資材の投入から、事業活動を経てどのような環境負荷が発生しているかを表したものです。今後も、この現状を踏まえ、更なる環境負荷低減に努めていきます。

### 資源投入量

- ・電力量<sup>※1</sup> ..... 236.9 百万kWh
- ・燃料<sup>※2</sup>(軽油、ガソリン、A重油など) ..... 8.5 千ℓ  
(LNG、LPGなど) ..... 1.8 千トン
- ・水 ..... 2.4 百万トン
- ・熱(蒸気など) ..... 48.1 百万MJ
- ・コピー用紙 ..... 127.9 百万枚
- ・PRTR法指定化学物質取扱量 ..... 39.8 トン

### INPUT

### 事業活動



エネルギー関連  
事業



情報通信  
事業



環境・リサイクル  
事業



生活サービス  
事業

#### 環境活動

- ・環境目標管理
- ・省エネ、省資源推進
- ・温室効果ガス排出抑制
- ・規制対象フロン排出抑制
- ・リサイクル推進
- ・グリーン調達推進
- ・大気汚染物質排出抑制
- ・環境教育の実施

- ・温室効果ガス排出抑制量<sup>※3</sup> ..... 18.9 千トン-CO<sub>2</sub>
- ・規制対象フロン回収実施率<sup>※4</sup> ..... 100 %
- ・SO<sub>x</sub>排出低減量<sup>※5</sup> ..... 4.0 千トン
- ・NO<sub>x</sub>排出低減量<sup>※6</sup> ..... 1.7 千トン
- ・産業廃棄物リサイクル率(量) ..... 91 % (74.6千トン)
- ・古紙リサイクル率(量) ..... 93 % (0.9千トン)

### OUTPUT

### 環境負荷量

- ・温室効果ガス排出量<sup>※2</sup> ..... 142.6 千トン-CO<sub>2</sub>
- ・オゾン層破壊物質排出量<sup>※7</sup> ..... 0.1 ODPトン
- ・SO<sub>x</sub>排出量 ..... 2.4 千トン
- ・NO<sub>x</sub>排出量 ..... 2.2 千トン
- ・PRTR法指定化学物質排出量(大気) ..... 33.9 トン
- ・産業廃棄物処分量 ..... 7.2 千トン
- ・古紙処分量 ..... 0.1 千トン

※1:発電所内電力量等を除く購入電力量を計上。 ※2:電力会社等への販売電力量分(発電用燃料及びその燃焼に伴う排出量)を除く。

※3:新エネルギー等の導入実績において、導入しなかった場合をベースラインとして算出。 ※4:点検時において法令基準レベル(撤去時における法定圧力)までガス回収を実施した機器の割合。

※5:ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硫処理や低硫黄燃料の使用を行わなかった場合をベースラインとして算出。

※6:ばい煙発生施設(ボイラー等)において、脱硝処理を行わなかった場合をベースラインとして算出。 ※7:各フロンのオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11重量相当に換算。

### 環境データ集約の考え方

- ・環境活動実績に対するグループ会社の集計は、右記を対象としています。(九州電力は含まず)
- ・データ適用対象の会社すべてにおいて、データ把握を行っています。
- ・一部把握困難なデータ(テナント入居の水使用量等)は含んでいません。
- ・四捨五入の関係上、合計及び百分率が合わないことがあります。
- ・購入電力に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国から公表された「電気事業者別二酸化炭素排出係数」を用いて算出しています。

### 環境データの集計対象

2007年度	グループ環境経営推進部会加入の46社
2008年度	グループ環境経営推進部会加入の48社
2009年度	グループ環境経営推進部会加入の50社 <sup>※</sup>

※:2009年度は2008年度から3社が加入し、1社が会社解散により退会。

#### [2009年度実績より新たに集計対象となった会社]

- ・(株)キューデン・グッドライフ福岡浄水  
事業内容:有料老人ホーム経営及び介護サービス事業
- ・(株)コアラ  
事業内容:インターネット接続、コンテンツ製作
- ・(株)プラズファイヤー  
事業内容:プラズファイヤー工法を用いた溶射事業

## 5 環境目標と実績

主要な環境活動について目標を設定し、環境負荷の継続的な低減に努めています。

省エネ空調やビル・エネルギー管理システム (BEMS) の導入、及びエアコンの適正温度設定や不要照明の消灯等の活動により、オフィス電力使用量の抑制につながりました。

項目	単位	実績			グループ環境目標		
		2007年度	2008年度	2009年度			
地球環境問題への取組み	オフィス電力	使用量	百万kWh	31.7	30.2	28.3	—
		単位面積あたり使用量	kWh/m <sup>2</sup>	130.5	125.5	116.2	130以下 (2010年度)
	自家物流送 (特殊車両等を除く)	低公害車導入比率 <sup>※1</sup>	%	46	54	58	60以上 (2010年度)
		燃料消費率 (燃費)	km/ℓ	9.7	10.7	10.8	11以上 (2010年度)
	SF <sub>6</sub> (六フッ化硫黄) 回収率	機器点検時	%	実績なし <sup>※2</sup>	実績なし <sup>※2</sup>	実績なし <sup>※2</sup>	98以上
		機器撤去時	%	実績なし <sup>※2</sup>	実績なし <sup>※2</sup>	100	99以上
	機器点検時の規制対象フロン回収実施率	%	100	100	100	100	
用紙使用量 <sup>※3</sup>	百万枚	114.0	114.1	127.9	事務用紙使用量の節約		
上水使用量	千トン	179.0	175.5	175.7	上水使用量の節約		
成への取組み	リサイクル率	産業廃棄物	%	89	87	91	90程度
		古紙	%	90	90	93	100

※1: クリーンエネルギー車と低燃費車のグループ会社保有車両総台数に占める割合。 ※2: 設備は保有しているが、機器の点検・撤去の実績がないもの。  
※3: 用紙使用量はA4サイズ換算枚数。

## 6 環境会計

「九電グループにおける環境会計基準」に基づき、各社で算定した環境活動コストを集約しています。

2008年度比で投資額が約2倍となったのは、発電設備の効率向上対策など地球環境保全コストの増加が主な要因です。

単位: 百万円

環境活動の分類	主な活動	2008年度		2009年度		2009年度環境活動	
		投資	費用	投資	費用	項目	効果
地球環境保全	地球温暖化防止及び オゾン層保護対策等	496.3	119.8	1,393.2	55.5	温室効果ガス排出抑制量 <sup>※1</sup>	18.9千トン-CO <sub>2</sub>
地域環境保全	大気汚染・水質汚濁・ 騒音・振動防止対策等	13.4	828.1	10.4	1,042.6	オゾン層破壊物質排出量 <sup>※2</sup>	0.1 ODPトン
						SOx排出低減量 <sup>※3</sup>	4.0千トン
資源循環	産業廃棄物・一般廃棄物の 適正処理等	2.5	989.5	1.7	998.9	NOx排出低減量 <sup>※4</sup>	1.7千トン
						法令、条例に基づき適正に管理	
グリーン調達	グリーン調達で発生した 差額コスト	—	6.4	—	3.5	産業廃棄物リサイクル量	74.6千トン
						産業廃棄物適正処分量	7.2千トン
環境活動の 管理	環境教育、 EMS運用管理、 環境負荷監視・測定、 構内緑化 <sup>※5</sup> 等	160.6	294.6	7.5	303.4	古紙リサイクル量	0.9千トン
						一般廃棄物の適正処理	
環境関連研究	廃棄物有効利用等	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—
社会活動	地域の環境活動支援等	0.0	4.0	0.0	3.3	環境講演会	50社 52人参加
						外部認証取得会社 (ISO14001, EA21)	17社
環境損傷対応	公害健康被害補償制度に よる汚染負荷量賦課金	—	160.0	—	210.0	EMSの第2~4段階への取組会社 <sup>※6</sup>	24社
						環境関連データベース項目数	858
合計	—	672.9	2,402.3	1,412.7	2,617.1	九州ふるさと森づくり植樹活動	25社延べ686人参加
						環境月間講演会	42社70人参加
						地域清掃活動	30社実施

(注) 四捨五入のため合計値が合わないことがある。

※1: 新エネルギー等の導入実績において、導入しなかった場合をベースラインとして算出。 ※2: 各フロアのオゾン層破壊係数を用いて、CFC-11重量相当に換算。

※3: ばい煙発生施設 (ボイラー等) において、脱硫処理や低硫黄燃料の使用を行わなかった場合をベースラインとして算出。

※4: ばい煙発生施設 (ボイラー等) において、脱硝処理を行わなかった場合をベースラインとして算出。

※5: 2009年度から「構内緑化」コストを「環境活動の管理」に計上 (「社会活動」からの項目間移動)。 ※6: EA21認証取得会社を除く。

- ビル・エネルギー管理システム (BEMS)
- 地球環境問題
- 自家物流送
- 低公害車

- SF<sub>6</sub> (六フッ化硫黄)
- 上水
- 循環型社会
- グリーンエネルギー車
- 低燃費車

- 環境会計
- 環境活動コスト
- 地球温暖化
- オゾン層
- 水質汚濁

- 資源循環
- 一般廃棄物
- 環境マネジメントシステム (EMS)
- 公害健康被害補償 (制度)
- 汚染負荷量賦課金

- ISO14001
- エコアクション21 (EA21)
- 環境月間

用語集の解説をご覧ください